

---

## 交流ネットワーク構築のためのフォローアップ調査結果

国際企画委員会国際学術協力部会

平成 20 年 5 月

### 1. 調査目的

国際学術協力に係わる海外派遣事業は、平成 13 年度に始まり平成 19 年度までに延べ 47 名の若手研究者・技術者を海外に派遣してきた。これまでの派遣により、多くの研究交流がはかられてきたが、今後もこれらの交流を継続し、さらに発展していくためには、研究交流のフォローアップ調査に基づくネットワーク構築が重要となる。そこで今回、本事業の研究交流ネットワーク構築に対する有効性の検討ならびに課題の抽出を行うことを目的として、平成 13 年度まで遡って継続的研究交流の有無に関するアンケート調査を行うこととした。

### 2. 調査内容

#### (1) 基本データ

- ・ 氏名
- ・ 所属
- ・ 派遣年度
- ・ 派遣テーマ

#### (2) 調査内容に関するデータ

- ・ 技術分野
- ・ 派遣期間
- ・ 派遣先
- ・ コンタクトパーソン
- ・ 調査・研究の概要

#### (3) 継続的な研究交流ネットワークに関するデータ

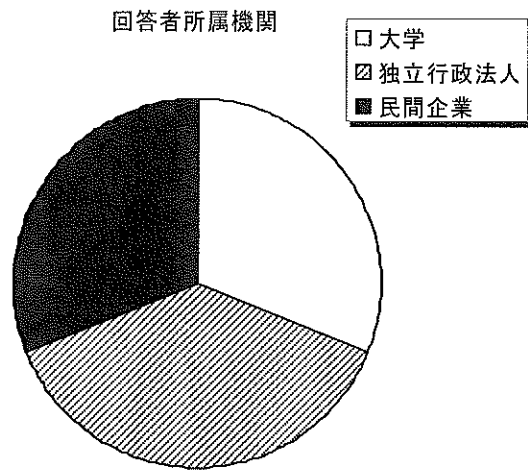
- ・ 派遣後の研究交流の有無
- ・ 研究交流期間（交流ありの場合）
- ・ 研究交流の概要（交流ありの場合）
- ・ 研究交流によって得られた成果（交流ありの場合）
- ・ 継続的な研究交流に関する今後の派遣者へのアドバイス等（交流ありの場合）
- ・ 研究交流なしの場合、その理由

### 3. 調査結果

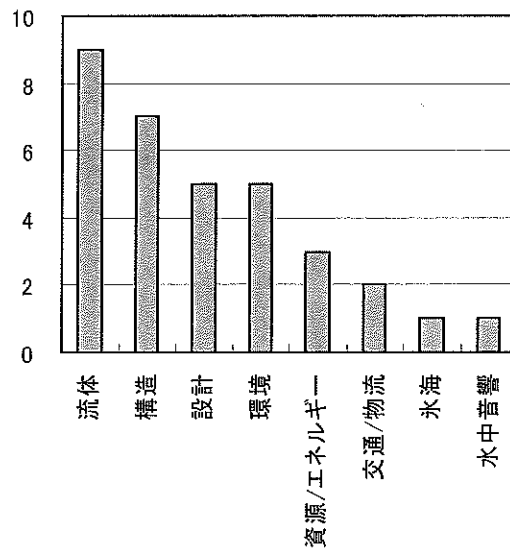
#### (1) 回答率

- ・ 回答数／依頼数 = 29／40 = 73%

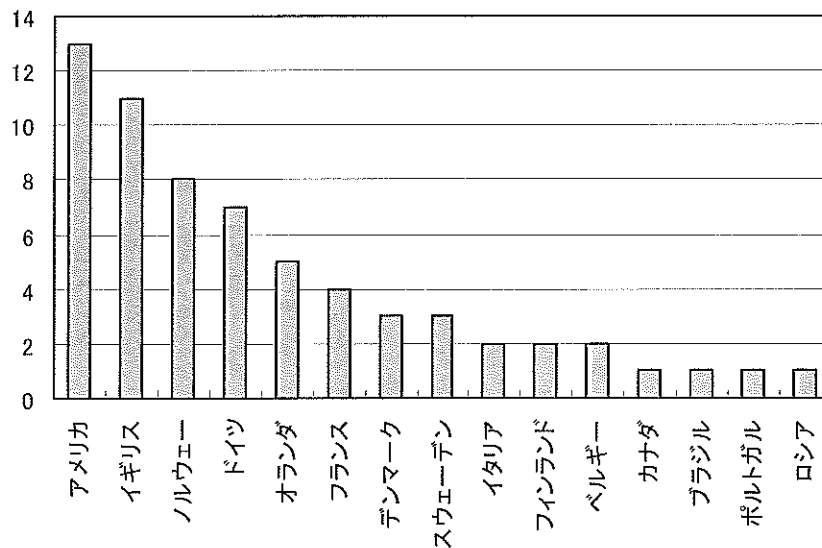
(2) 回答者所属機関



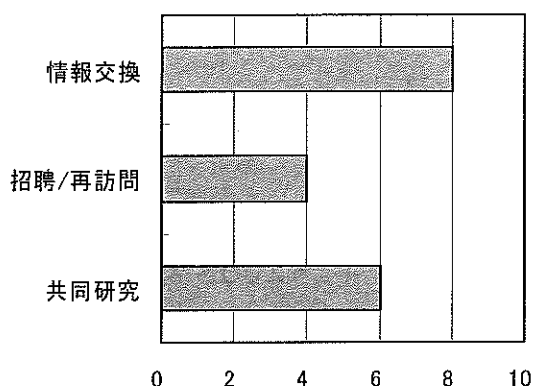
(3) 派遣調査の技術分野の内訳



(4) 派遣調査の訪問国



#### (5) 継続的な研究交流の実績



#### (6) 研究交流なしの場合の理由 (主なもの)

- ・ 訪問時と現在の業務/研究内容が異なる
- ・ 採算等の制約から現状では実案件がない (特に民間企業)
- ・ 現時点では実績はないが今後の交流予定はある

#### (7) 継続的な研究交流に関する今後の派遣者へのアドバイス (主なもの)

- ・ 自分の業務/研究と直結しており, 所属機関のバックアップがあるテーマを選ぶ
- ・ 情報収集だけでなく, 情報発信も積極的に行う
- ・ 共同研究や国際会議共同運営など, 具体的プランを準備し提案する

#### 4. まとめ

回答者の所属は, 大学, 独立行政法人, 民間企業でほぼバランスが取れており, 偏りのない意見が得られたと考えられる。派遣調査の技術分野では, 流体関係が最も多く, 次いで構造関係, 設計関係のいわゆる船舶海洋工学の分野が多数となっている。次いで環境や資源・エネルギー分野となっており, その他, 交通/物流, 氷海, 水中音響も含まれていた。訪問国別では, アメリカが最も多く, 西欧諸国, 北欧諸国がそれに次いでいる。

今回の調査の主目的であった継続的な研究交流の有無に関しては, 情報交換レベルから招聘/再訪問レベル, 共同研究レベルまで, レベルは違うものの, 合計 18 件の交流実績があることがわかった。これは回答者数の 62%にあたる。研究交流がない理由としては, 主として業務/研究に直結していないことが上げられ, この点については, 研究交流に関するアドバイスでも触れられている。研究交流実績を上げている派遣者は, あらかじめ研究交流の具体的なプランを準備した上で, 派遣の際に積極的な情報発信と交流提案を行うことが有効であると考えている。

以上